

選手ら激励の 米作り間近で

立正大同窓会が
現役生を招待

強化クラブ（硬式野球、サッカー、ラグビー、陸上部駅伝部門）の選手に新潟の「おいしいお米で力を付け、活躍してもらおう」と、2020年から始めた。

同支部から協力を依頼さ

れた同所の上野治さん（65）が取り組みに賛同し、支部会員と共に育てる。18歳から約720kgのコシヒカリB1が収穫され、毎年選手

らに贈っている。

ツアーパーに参加したのは

1～4年の一般学生23人で、同所へは16日に訪れた。法学部2年の茂木紗弥さんは「このような形で貢献してくれている人がいることを今まで知らなかつた。お米が実っている風景を間近で見ることもできた」と笑みを浮かべた。

立正大同窓会真支部（吉田存祐支部長）が在学生に新潟の魅力を感じてもらおうと「地域探究バスツアー」を実施した。県内各地を巡り、市内安田の「新潟・米づくりプロジェクト」専用田では、同窓会の取り組みに理解を深めてもらった。

同プロジェクトは、同大



立正大同窓会による「新潟・米づくりプロジェクト」の田んぼを訪れた現役学生＝市内安田

立正大同窓会による「新潟・米づくりプロジェクト」の田んぼを訪れた現

キャンバス内で選手と一般学生が接する機会は少なく、見学を通じ、同窓会活動のほか各部の成績にも親しみを持つてもらう狙いも決めた。吉田支部長（67）は「同窓会活動は恩返し。新潟県の特色を生かした活動を通じて、学生の力になりたい。選手は食べて元気を出し、好成績を残してもらいたい」と期待した。